

# 農業土木を 支えてきた人々

## 渡辺泉竜と新江用水路の開削

— 明松のあかりで —

上 田 一 美\* 山 川 肇 彦\*\*

### はじめに

越前の国を南から一級河川九頭竜川が北上する。美濃や加賀との国境を源に大野盆地・勝山盆地を貫流し大きく蛇行しながら日本海に注いでいる。この中流部、福井平野にたどりつく扇頂部に鳴鹿堰堤が築造されている。本堰堤は国営農業水利事業として昭和22年から着工され、堰長 273 m の統合堰が昭和30年に竣工したもので、現在は福井平野や坂井北部丘陵の田畑 11,652 ha への灌漑水と福井市上水道へ 0.996 m<sup>3</sup>/s を取水している。統合以前は、図-1 のように三つの取水口に分散し、右岸では鳴鹿から十郷用水を、直下流五領ヶ島から河合春近用水を、また対岸の志比界から芝原用水を取入れていた。十郷用水の受益は旧 118 カ村からなり、その支配面積は 7 万 9 千石 (4,300 町歩)、河合春近用水は旧 42 カ村、2 万 6 千石 (1,300 町歩)、また芝原用水は旧 63 カ村、4 万石 (2,200 町歩) で、その他用水を加えると総支配面積は約 1 万町歩に達していた。

昭和56年度から国営総合農地開発事業坂井北部地区の田畑に、昭和55年度から県営農業用水合理化事業の一環として、福井市上水道へおのおの給水を行っている。

さて、豊かな九頭竜川であっても十分に取水することは容易ではなかった。このうち、芝原用水と河合春近用水はその大部分が福井藩領であり、とくに芝原用水は福井城下の上用水として藩の直轄用水となっていたため、管理が極めて厳格であったことが逆に好都合であったのに対し、十郷用水は丸岡藩領をはじめ幕府、福井藩、旗本領が錯綜していたため、管理は非常に複雑を極めていた。その上他の二つの用水の上流に取入口を設置しており、この大堰所の築造いかんはただちに下流の用水の取入れに直接影響を与え、利害相反するこの両者の間に

は、大堰所の築造を巡って対立することがしばしばであった。大堰所は川幅 100 間以上の九頭竜川を横切って築造されていたが、土木技術はある程度進んでいたとはいえほとんど人力により松杭で作った三又框に玉石を詰めて並べるといった工法であるから、その安全度は推して知るべしで、最大の障害は洪水であった。この危険にさらされながら、223 カ村の生命線である取入堰や用水路を確保するのである。当時、鳴鹿大堰所の工事は請負制度となっており、この制度は極めて厳重で業者から証文を提出させ、江守役や用水組合総代の指図により、規定の工事をすることになっていた。証文は「相渡申請負証文」と「引請申藤杭証文」の二つである。一方、大堰所からの取水は十郷用水・磯部用水・高椋用水に分水されているが、用水費の賦課においては下流側の十郷、磯部両組合が割高になっており、高椋用水組合は取水口に近いところから人足割になっていた。このため工事も地元の高椋用水組合で請負うのが慣例で、「江奉行」といわれている四人の江守役においても地元の「土肥」が工事の主任監督となっていた。また、工事の請負人も地元鳴鹿村の者が多く、これは大川の中での危険な作業であるだけに経験者でなければ絶対に勤まらないもので、請負証文も数年間継続の定請負にしており、経験を生かすための適当な措置であったようだ。また、鳴鹿には舟渡し場があって、川舟が常設され、船頭もあり、四季折々の川漁が盛んで、子供のときから大川には馴れ親んで、水中の堰所工事には最も適当であったのだろう。

### I. 明松のあかりで

さて、鳴鹿大堰所から取水した十郷用水が、最初に分水 (丸岡町東二ツ屋地係) するのが一番堰からの新江用水である。新江堰は高さ 3 尺、幅 6 尺あり、蛇籠を並べ玉石を詰めこみ、そだやむしろを使って砂利をおさえる方法である。新江用水は高椋用水のさらに高位部を東方

\* 福井県耕地課 (うえだ かずみ)

\*\* " 南越耕地事務所調査課 (やまかわ としひこ)

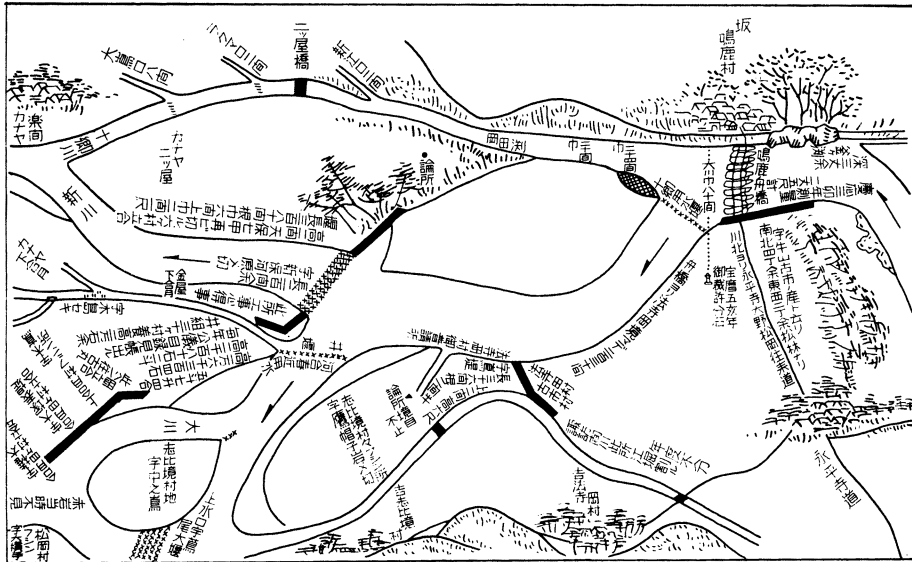


図-1 明治初頭の九頭竜川鳴鹿付近位置図

の山沿いに北流して山久保に至り、五領堰用水に合流し、その末端は竹田川へ落水するのであるが、支配面積は21カ村、317町歩を灌漑している。この用水を開削、また周辺の開拓に多大の貢献をされたのが、渡辺泉竜である。

江戸時代の寛永(1624~)のころ、加賀の浪士であった渡辺泉立は、諸方を回るうち丸岡城の南東、加越山地の麓に位置する野中村の山王に立寄り、鰐淵家に身を寄せた。この鰐淵家は「高椋家」と呼ばれ、図-2のように戦国大名朝倉氏の家臣、鰐淵将監に縁をもつ家柄を伝え、江戸時代を通して代々鰐淵姓を名乗った。当家は丸岡藩野中組の組頭(大庄屋)を勤めており、後には藩財政改革に際しては、郷会所の頭取として財政再建に貢献している。

泉立はこの家に寄寓するうち、周辺を歩き回り、山沿いに広がる荒地を見て、この地を開拓し、村人の繁栄のために利用することができないだろうか。そのためには、この地に用水を導くことが先決であるが、それが可能かについて思案を重ねた。近くには大きな谷らしきものもなく、南の鳴鹿まで行かねばならず、さらに、水路を山すそに求めるとその出入が多く、勾配の見通しがきかない。当時の人力で測量

をすることは全く不可能であった。そこで思案のあげくに思い浮かんだのが、「明松」であった。たくさんの明松を作り、夜半、要所要所にそれらを燃やし、遠方から眺め、松明の光で土地の高低を計り、これを繰返しながら鳴鹿に至って水を引くことができるのを確かめたのである。

泉立は、さっそく鰐淵三五右エ門に相談した。それまでも三五右エ門はなにかと泉立の様子に気を配っており、縁があってわが家に落着いた者が「ふるさと」の開発のために熱中するこの誠意に感激し、改めて調査を重ね実現の確信を得たのである。そこで、三五右エ門の取計らいにより、丸岡藩主本多飛騨守成重に願出て、用水路掘割りの許可を得て、寛永2年(1625)の春に工事を開始した。

丸岡城主本多飛騨守は本多四代の祖(図-3)で、この時54歳であった。父の作左エ門尉重次は、徳川家康の家臣で、たびたびの合戦に軍功があり、「鬼作左」の勇名をとどろかせた。陣中より「一筆啓上、火の用心 お仙泣かすな 馬肥せ」と書き送ったのは有名で、このお仙は仙千代で飛騨守成重の幼名である。大阪の陣などの軍功により四万六千石の丸岡藩主となって

正徳  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31  
32  
33  
34  
35  
36  
37  
38  
39  
40  
41  
42  
43  
44  
45  
46  
47  
48  
49  
50  
51  
52  
53  
54  
55  
56  
57  
58  
59  
60  
61  
62  
63  
64  
65  
66  
67  
68  
69  
70  
71  
72  
73  
74  
75  
76  
77  
78  
79  
80  
81  
82  
83  
84  
85  
86  
87  
88  
89  
90  
91  
92  
93  
94  
95  
96  
97  
98  
99  
100  
101  
102  
103  
104  
105  
106  
107  
108  
109  
110  
111  
112  
113  
114  
115  
116  
117  
118  
119  
120  
121  
122  
123  
124  
125  
126  
127  
128  
129  
130  
131  
132  
133  
134  
135  
136  
137  
138  
139  
140  
141  
142  
143  
144  
145  
146  
147  
148  
149  
150  
151  
152  
153  
154  
155  
156  
157  
158  
159  
160  
161  
162  
163  
164  
165  
166  
167  
168  
169  
170  
171  
172  
173  
174  
175  
176  
177  
178  
179  
180  
181  
182  
183  
184  
185  
186  
187  
188  
189  
190  
191  
192  
193  
194  
195  
196  
197  
198  
199  
200  
201  
202  
203  
204  
205  
206  
207  
208  
209  
210  
211  
212  
213  
214  
215  
216  
217  
218  
219  
220  
221  
222  
223  
224  
225  
226  
227  
228  
229  
230  
231  
232  
233  
234  
235  
236  
237  
238  
239  
240  
241  
242  
243  
244  
245  
246  
247  
248  
249  
250  
251  
252  
253  
254  
255  
256  
257  
258  
259  
260  
261  
262  
263  
264  
265  
266  
267  
268  
269  
270  
271  
272  
273  
274  
275  
276  
277  
278  
279  
280  
281  
282  
283  
284  
285  
286  
287  
288  
289  
290  
291  
292  
293  
294  
295  
296  
297  
298  
299  
300  
301  
302  
303  
304  
305  
306  
307  
308  
309  
310  
311  
312  
313  
314  
315  
316  
317  
318  
319  
320  
321  
322  
323  
324  
325  
326  
327  
328  
329  
330  
331  
332  
333  
334  
335  
336  
337  
338  
339  
340  
341  
342  
343  
344  
345  
346  
347  
348  
349  
350  
351  
352  
353  
354  
355  
356  
357  
358  
359  
360  
361  
362  
363  
364  
365  
366  
367  
368  
369  
370  
371  
372  
373  
374  
375  
376  
377  
378  
379  
380  
381  
382  
383  
384  
385  
386  
387  
388  
389  
390  
391  
392  
393  
394  
395  
396  
397  
398  
399  
400  
401  
402  
403  
404  
405  
406  
407  
408  
409  
410  
411  
412  
413  
414  
415  
416  
417  
418  
419  
420  
421  
422  
423  
424  
425  
426  
427  
428  
429  
430  
431  
432  
433  
434  
435  
436  
437  
438  
439  
440  
441  
442  
443  
444  
445  
446  
447  
448  
449  
450  
451  
452  
453  
454  
455  
456  
457  
458  
459  
460  
461  
462  
463  
464  
465  
466  
467  
468  
469  
470  
471  
472  
473  
474  
475  
476  
477  
478  
479  
480  
481  
482  
483  
484  
485  
486  
487  
488  
489  
490  
491  
492  
493  
494  
495  
496  
497  
498  
499  
500  
501  
502  
503  
504  
505  
506  
507  
508  
509  
510  
511  
512  
513  
514  
515  
516  
517  
518  
519  
520  
521  
522  
523  
524  
525  
526  
527  
528  
529  
530  
531  
532  
533  
534  
535  
536  
537  
538  
539  
540  
541  
542  
543  
544  
545  
546  
547  
548  
549  
550  
551  
552  
553  
554  
555  
556  
557  
558  
559  
560  
561  
562  
563  
564  
565  
566  
567  
568  
569  
570  
571  
572  
573  
574  
575  
576  
577  
578  
579  
580  
581  
582  
583  
584  
585  
586  
587  
588  
589  
590  
591  
592  
593  
594  
595  
596  
597  
598  
599  
600  
601  
602  
603  
604  
605  
606  
607  
608  
609  
610  
611  
612  
613  
614  
615  
616  
617  
618  
619  
620  
621  
622  
623  
624  
625  
626  
627  
628  
629  
630  
631  
632  
633  
634  
635  
636  
637  
638  
639  
640  
641  
642  
643  
644  
645  
646  
647  
648  
649  
650  
651  
652  
653  
654  
655  
656  
657  
658  
659  
660  
661  
662  
663  
664  
665  
666  
667  
668  
669  
670  
671  
672  
673  
674  
675  
676  
677  
678  
679  
680  
681  
682  
683  
684  
685  
686  
687  
688  
689  
690  
691  
692  
693  
694  
695  
696  
697  
698  
699  
700  
701  
702  
703  
704  
705  
706  
707  
708  
709  
710  
711  
712  
713  
714  
715  
716  
717  
718  
719  
720  
721  
722  
723  
724  
725  
726  
727  
728  
729  
730  
731  
732  
733  
734  
735  
736  
737  
738  
739  
740  
741  
742  
743  
744  
745  
746  
747  
748  
749  
750  
751  
752  
753  
754  
755  
756  
757  
758  
759  
760  
761  
762  
763  
764  
765  
766  
767  
768  
769  
770  
771  
772  
773  
774  
775  
776  
777  
778  
779  
780  
781  
782  
783  
784  
785  
786  
787  
788  
789  
790  
791  
792  
793  
794  
795  
796  
797  
798  
799  
800  
801  
802  
803  
804  
805  
806  
807  
808  
809  
810  
811  
812  
813  
814  
815  
816  
817  
818  
819  
820  
821  
822  
823  
824  
825  
826  
827  
828  
829  
830  
831  
832  
833  
834  
835  
836  
837  
838  
839  
840  
841  
842  
843  
844  
845  
846  
847  
848  
849  
850  
851  
852  
853  
854  
855  
856  
857  
858  
859  
860  
861  
862  
863  
864  
865  
866  
867  
868  
869  
870  
871  
872  
873  
874  
875  
876  
877  
878  
879  
880  
881  
882  
883  
884  
885  
886  
887  
888  
889  
890  
891  
892  
893  
894  
895  
896  
897  
898  
899  
900  
901  
902  
903  
904  
905  
906  
907  
908  
909  
910  
911  
912  
913  
914  
915  
916  
917  
918  
919  
920  
921  
922  
923  
924  
925  
926  
927  
928  
929  
930  
931  
932  
933  
934  
935  
936  
937  
938  
939  
940  
941  
942  
943  
944  
945  
946  
947  
948  
949  
950  
951  
952  
953  
954  
955  
956  
957  
958  
959  
960  
961  
962  
963  
964  
965  
966  
967  
968  
969  
970  
971  
972  
973  
974  
975  
976  
977  
978  
979  
980  
981  
982  
983  
984  
985  
986  
987  
988  
989  
990  
991  
992  
993  
994  
995  
996  
997  
998  
999  
1000

図-2 高椋家々系図

(丸岡城主)  
1624~1695

本多重次  
初代丸岡城主  
3  
重昭  
4  
重益  
重能

図-3 本多家々系図

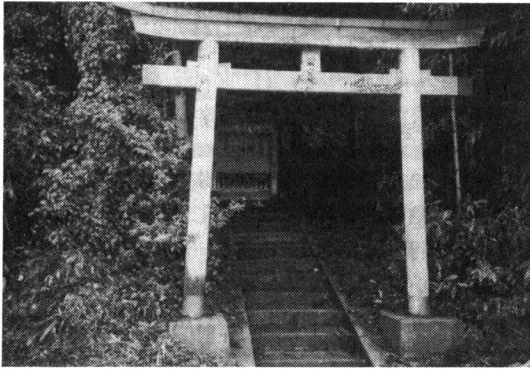


写真-1 山王明神

から、子の重能と協力し、本多家の興隆に、領内の統治に専念していた。このような時期、泉立の願い出に喜んで、直ちに許可を与え、領内開発に協力させたものである。

さて、川掘り工事は、何分山沿い地帯であるため、尾根の突出した所をつなぎ、河床勾配に注意しながら進められた。地元の協力によって工事ははかどったが、たびたび岩石等に突当り、これを掘上げるのに苦労したが、そのようなときには、氏神の山王明神に祈願をこめて取除いたと伝えられている。この時の岩石を社に祭り、(写真-1) 今なお地元民は、ことあるごとに感謝している。

この大事業を伝え聞いた近隣の村人は次々と集まり、さらに三五エ門の指図で村々の協力は行届いていたようである。また30歳にもならない泉立は、村人の先頭に立ち、鍬をふるい、もっこをかつぎ、朝のまだ暗い中から出かけ、雨の日も休まず、労苦を重ねること4年、さしもの難事業も山久保まで2里14町(9.4 km)に達し、掘削工事は完成した。川幅6尺で、両側には3尺の土揚げ場をつくった江は、明松測量に狂いはなく、満々と水をたたえて流れたのである。川岸にたたずんで見守る泉立の感概はいかようなものであったろうか。また、村人も神様のお授け下さった川と一同合掌し、藩主は深くその功を賞し、泉立を泉竜と名を改め、五人扶持を与えたのであった。

これは泉竜の若いころのことで、その後の50年については何の記録も残されていない。彼の死後に起った本多家騒動で領地没収となった四代重益は、鳥取藩にお預けとなったためである。しかし、泉竜はその後の本多三代に仕えており、藩政の発展の中でその足跡をたどることができる。

藩祖成重は嗣子重能と協力し、まず城郭を完成させたり、城郭の周辺を検地して城下町の区域を定める都市計



写真-2 渡辺泉竜座像

画事業を遂行した。同時に領内統治の基礎を確立していったのである。三代重昭の治政は26年間に及び、領内の検地を終了し、民政は行渡った。こうした中にあり、泉竜は完成した新江用水の維持補修に努め、末流までの長い水路の整備に専念した。また、寛永7年(1630)藩役人が新江筋を検分した上で、田屋にいたる間の村々に対して江々を掘り、分水江を開いた。このようにして上流地区から開田工事を進めて山久保に至ったのであるが、土地の状況に応じて、かけい(笥)や埋樋や水門を造り、架橋した。藩は人足50人をあて、とくに工事を必要とする時には、半官半民として経費を負担し、工事を行ったのである。その間の藩の検地では、得意の土地測量の面で立働きの、新江地係村々の検地は延宝3年(1675)前後で、開発された水田も整備されていた。

一方、山崎三ヶの荒谷に発する北浦川で、大森や山崎三ヶの地係を灌漑していたが、夏の渇水期になると両区の間でよく争議を起こしていた。しかし、新江ができ、これで紛争もおさまったのである。

また、東方の山中に発するいくつかの谷川があり、これらが用水と交差し大きな支障となっていたので、違い水甲を設けた。上久米田の大谷川をはじめとして、六呂瀬、野中山王の三味谷、大森、山崎三ヶの定多、与河の井勝川、赤坂の郷田の七カ所にある違い水甲の施設によって、出水時の新江用水も安全を確保されたのである。

延宝4年(1676)正月、三代重昭が死去したのは、泉竜にとって最も大きな悲しみであった。主君の愛護のもとに老いも知らずに働いてきたからである。その後は本多家三代の供養の中に過ごし、延宝6年(1678)6月22日に死去した。藩では生前の用水功勞により、藩の祈願所である女形谷の直乗院に葬った。そして、自然石で渡辺泉竜の墓碑を建立したのである。また、直乗院には、泉竜の座像も祀(祭)られている(写真-2)。

昭和3年4月、新江普通水利組合の主催で、「渡辺泉竜」250回忌追悼大法要を厳修したが、その際の組合長高椋（鰐淵）精太郎の悼辞に、脈々と受け継がれてきた泉竜への地元民の心情が吐露されている。その一部を引用させていただきますと、

（前略）寛永二年春工ヲ起シ、努力奮闘日夜心血ヲ注ギ家門ヲ過グレドモ入ラズ、同五年完成ヲ告ゲ名付ケテ新江ト称ス。領主其ノ功ヲ賞シ名ノ一字ヲ竜ト改メ五人扶持ヲ以テセラル。事来田圃、開利益々興リ村邑年ト変ズルモノ数百戸ニ及ブ。其ノ恩恵ノ甚大ナル富岳琵琶湖ニモ比スベシ。安ゾ永久謝恩ノ念慮ナクシテ可ナランヤ。余祖先ノ由緒ニ因リ列席ノ光栄ヲ有ス。欣懐奈ゾ如カン。恭シク霊前ニ香ヲ尊ジ、感ガイ無量彷彿トシテ祖先ニ会ルスノ念アリ。

墓碑は、もと寺の後方にあったのが、昭和29年に新江土地改良区の手で、新江のせせらぎの見渡せる現在の地に移設された。そして昭和52年6月には、渡辺泉竜300

回忌の法要も営まれている。新江用水に九頭竜川の水が流れる限り敬慕の念は、代は代れども受け継がれてゆくのである。

### あとがき

九頭竜川鳴鹿堰堤は、今再び改修の時期を迎え、土地改良事業直轄調査福井平野地区として、昭和57年度から継続調査を行っており、この時期、渡辺泉竜について紙間をいただいたのも、何かの縁を感じます。しかし、調査不足もあり、泉竜の業績を十分皆様にお伝えできないことを残念に思います。最後にご指導、ご協力いただいた、鰐淵家（高椋）・丸岡町・福井県史編さん室の皆様へ深く謝意を表します。

### 参考資料

- 丸岡の人脈……………丸岡町教育委員会
- 鳴鹿村誌……………丸岡町（旧鳴鹿村）
- 福井県史（中近世史料編）……福井県

[1985. 4. 15. 受稿]